

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 医学部看護学科

事業担当者の職・氏名： 教授・竹内佐智恵

内線電話番号： 6221

電子メール：s-takeuchi@med.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

カトリック応用科学大学への短期研修—インターナショナルウィーク 2025 への参加—

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

看護学科の提携校であるカトリック応用科学大学(ドイツ, フライブルク)は2016年から隔年で International week を開催し, 今回の企画は5回目となり, “Society under Pressure: A Journey to Equality and Fairness, Participation and Democracy”をメインテーマとした内容であった。

(2) 事業の背景・これまでの実績

International week は5回目となる。欧州, 南米を中心とした提携校から教員や学生が参加し, 講義やワークショップで互いの情報や知識を英語で共有し合うことを目的としたものである。

看護学科は, コロナ禍でのオンライン参加を含め, 初回の企画から学生の参加を継続してきている。

(3) 事業実施結果

【学生の実施結果】

企画された講義に参加した。大学の中心的教育テーマであるソーシャルワークに関する講義が多かったが, 英語講義を理解しようと熱心に参加し努力した。また, 欧州で起こっている不安定情勢の渦中にあるウクライナからの学生のワークショップに自主的に参加した。ペアとなったウクライナの学生と交流しながら自身の考えを述べあう機会に, 他国の学生が母国語ではない英語で考えを述べている様子に刺激を受けながら参加し, この体験が最も印象的なものとなった。



また, 課外活動企画として市中散策やSDGsの理念を行動化した植樹活動に参加した。語学力のみならず歴史を知り他者に説明する姿勢や将来を見据えた活動への取り組み姿勢からも学びを得て, 今後の学修, 人としての成長への動機を高めた。

生活においては受け入れ校の学生3人のシェアハウスに滞在させてもらい, 日常生活を共にする経験をした。



【三重大学からの参加の結果】

参加教員から看護にけるシミュレーション教育の在り方についての講義をする機会を得た。シミュレーション教育において、高性能機器を用いたシミュレーション教育が盛んになっている米中豪に比して欧州では新システムの導入は緩徐な傾向にあると感じる。従来の教育法の成果の組み合わせによる提案について、南米、ドイツの教員と意見交換をする機会となった。

(4) 事業の意義

本学科の学生に提携校への短期研修の希望を問うと、数名の学生からドイツへの渡航の希望が出される。

近年の世界情勢は必ずしも安定したものではない。そうしたなかで受け皿となる提携校を基盤として、世界の状況を現地で体験体感することは、学生が自分の言葉で学問や文化のみならず平和を考える機会となる。

(5) 事業の発展性

本学科からは今回の事業インターナショナルウィークへの参加に加え後期に開講されるインターナショナルコース（約4ヶ月）への学生派遣をしている。先方校からも2-3年ごとに教員や学生が派遣されてきており交流が継続している。

両校の関係性についても、ドイツの提携校は三重大学医学部看護学科との連携を大切な関係と位置付けてくれており、本学科においてもその意向は同様である。(4)で示した意義を踏まえ、本事業は発展の可能性がある。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

中期目標	本事業の位置づけ
教育(5) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥	インターナショナルウィークは提携校が主催する多様な国からの学生、教員が参集した学術的、社会的交流の機会である。とりわけ欧州、南米を中心とした、ソーシャルワークの観点での内容は世界情勢を反映した内容もあり、世界情勢の知見に触れ幅広い教養を身に着ける機会となる。
教育(8) 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。⑫	インターナショナルウィークは提携校が主催する多様な国からの学生、教員が参集した学術的、社会的交流の機会である。異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する機会となる。
教育(9) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を	インターナショナルウィークはドイツの提携校で開催される企画である。世界情勢が不安定化するなかで有益な企画への渡航参加の支援において、学生が安心して学べる環境を提供するため、教員も社会情勢や危機管理を十分

提供する。⑬	認識する感性とスキルを醸成させる。
<p>研究（１１） 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮</p>	<p>本事業において発表または講義の機会に参加することで、より良い社会の実現に寄与する意識と感性を醸成する。</p>

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

看護学科 2025年度国際交流

カトリック応用科学大学への短期研修—インターナショナルウィーク 2025 への参加—

期間：2025年5月17日～25日（現地 5月18日～24日）

参加者：看護学科1名（2年生），教員1名

International Week:



看護学科の提携校であるカトリック応用科学大学(ドイツ, フライブルク)は2016年から隔年で International week を開催し, 今回の企画は5回目となり, ”Society under Pressure: A Journey to Equality and Fairness, Participation and Democracy”をメインテーマとした内容で開催されました。

講義やワークショップが計20コース開講されました。

その中には, 不安定な欧州状況のなかでロシアとの緊張関係にあるウクライナ, ロシアと接しているジョージアの提携校からの参加者の話もありました。危険な状況のなか陸路で移動し, 自国の状況やそうした状況のなかで



自身の専門性（心理学, ソーシャルワークなど）をどのように活かしていきたいかを「知ってほしい」思いで説明してくれました。



ネットを通して, 私たちは日常的に世界の情報を‘知る’ことはできます。しかし, 今回のように当事者の語りを直接聞くことが, ‘自分に何ができるか’を考える機会になることを体感しました。

人々と触れ合う, 文化に触れる:



黒い森を擁する町並みは美しく歴史を感じるものでした。学生らから話を聞くと, その歴史には大気汚染への抵抗, 街並みを整えることで身体機能に問題を抱えている人も共存できる環境づくりへの市民の動きなどがあることがわかりました。

人々と語り合う空間に参加できたことは‘知識’と共に‘意欲’にも肥やしを与えてもらいました。そして, 私たち自身も自国の文化や歴史を語る力を備えることの大切さを改めて感じました。

参加学生の声



参加していた学生たちは自らが社会に対しどのように働きかけられるか, どのように貢献できるかということについて考え, 学習をしている人が多かった。このことから, 私も病院内の看護だけでなく地域社会での看護や医療の形と, その中での看護師の役割について考えながら

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Faculty of Medicine, Department of Nursing International interactive Event 2025 Participation to the International week 2025 at Freiburg Catholic university in Germany

Duration: 17 May- 25 May (Staying between 18 May and 24 May)

Participant : Undergraduate student (2nd), Faculty member

Inspired through the participant in the International week 2025



The event, International Week at the Catholic University of Freiburg in Germany, has been held every other year since 2016. The fifth edition took place from 19 to 23 May 2025.

The theme was: "Society under Pressure: A Journey to Equality and Fairness, Participation and Democracy."



Ultimately, 20 lectures and workshops were organized. Some lecturers and presenters from Ukraine and Georgia, who are experiencing the crisis caused by the Russian invasion, shared the dangerous situations they are facing, their personal feelings, and their decisions to contribute to society as psychologists, social workers, and in other roles after graduation.

We usually receive global information through the internet in our daily lives. However, hearing directly from people with firsthand experience inspired us to think more deeply about the global situation and reflect on how we ourselves can contribute.

The experience to communicate with persons and culture in social :



Freiburg is located next to the Black Forest and features beautiful, traditional European architecture. We learned that the town has preserved its beauty and historic character thanks to the strong spirit of its citizens.

The opportunities for interaction and communication encouraged us

to decide exploring the culture and environments within our own country.